

2020年4月9日

日本造血細胞移植学会移植認定診療科責任医師 各位

公益財団法人 日本骨髄バンク
理事長 小寺 良尚

新型コロナウイルス感染拡大下における
「非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植に支障をきたす事例」に対応するお知らせ

- 骨髄・末梢血幹細胞液を保存することが可能です（プロダクト凍結）。
 - 採取直前にドナーの感染（感染疑い）や採取病院での医療スタッフ感染等により、前処置開始後に移植延期／中止となった場合、患者には致命的な状況となりかねません。これを防止するため、採取したプロダクトが無事に移植施設に到着したことを確認後に、前処置を開始することも一時的に可能とします。
 - 希望の場合はドナーの術前健診適格通知確認後に別紙「凍結申請書（新型コロナウイルス特別対応）」を移植調整部(e-mail: jmdpishoku@jmdp.or.jp)までお送りください。審査結果は速やかに返信いたします。プロダクトの運搬および凍結処理は、移植施設の責任で行ってください。
 - 患者病状により移植できない、また当初の移植予定日を超過する可能性が出てきた場合は、至急ご連絡ください。状況により採取を中止、もしくは再審査を行います。
 - 患者理由（病状等）での凍結申請は従来どおりの「凍結希望申請書」による申請が必要です。
 - 万一使われなかった場合、採取に関する費用は移植サイドの負担となります。
 - 通常どおり、ドナーに凍結されたことは伝えません。
- 今回は緊急避難的措置であり、現時点で採取日が決定している6月までの採取症例に限ります。通常は原則「凍結不可」であることに変わりありません。

緊急事態宣言延長に伴い削除しました。
6月採取であれば凍結申請可能とします。5月7日
- 採取施設の状況により、予定されていた採取が直前で中止される可能性も否定できませんので、他ソースでの移植（臍帯血移植、血縁者間ハプロ移植等）も6月まではバックアップとしてご準備ください。
 - ※臍帯血バンクオンライン申込み時に「新型コロナウイルス感染拡大に伴う非血縁骨髄／末梢血幹細胞のバックアップ」と記載してください。
 - ※バックアップとして準備した臍帯血は、バンクドナーからの幹細胞輸注後に必ずリリースしてください。
- 採取施設の受け入れ状況によっては、DLIの調整を開始できない場合があります。
- 移植予定患者さんに新型コロナウイルス感染（感染疑い）が発生した場合は、移植施設において 移植可否をご判断ください。

以上